

平成 21 年 4 月 30 日現在

研究種目：基盤研究 (C)  
 研究期間：2005～2008  
 課題番号：17601009  
 研究課題名 (和文) GISによるバブル経済崩壊以降の東京・大阪圏の  
 都市空間構造比較に対する学際的研究  
 研究課題名 (英文) Interdisciplinary researches on urban spatial structural  
 comparison between the Tokyo and Keihanshin metropolitan areas  
 after the collapse of bubble economy by adopting GIS.  
 研究代表者  
 浅川達人 (ASAKAWA TATSUTO)  
 明治学院大学・社会学部・教授  
 研究者番号：40270665

## 研究成果の概要：

本研究は、日本の二大都市圏である東京大都市圏と京阪神大都市圏の社会・空間構造を比較することを目的として行われた。その結果、東京大都市圏全体を見ると、ローカル・コミュニティが有してきた社会文化的特性が脱色され、全方向的に均質な中心対周縁という凝離した空間で序列化する力によって構造化されている実態が明らかになった。また、京阪神大都市圏については、ホワイトカラー、ブルーカラーの居住分化傾向は維持されたままであるものの、80年段階では明瞭であった職業階層による居住圏の同心円構造が不明瞭化してきたことが明らかになった。さらに、東京大都市圏では工業が集積する地域が見られたものの、京阪神大都市圏では東京大都市圏と同程度の工業集積地域は少ないことが示された。

## 交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	1,300,000	0	1,300,000
2006年度	900,000	0	900,000
2007年度	800,000	240,000	1,040,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総計	3,500,000	390,000	3,890,000

## 研究分野：時限

科研費の分科・細目：都市

キーワード：GIS, 社会地図, 職業階層, 構造と変動, 社会階層分極化, KS法クラスター分析

## 1. 研究開始当初の背景

2004年4月に大阪市立大学にて研究グループ結成の相談を行い、2004年5月に、大阪市立大学大学院の社会学/地理学専攻の大学院生、および、本研究の研究代表者及び研究分担者よりなる研究グループを結成し研究プロジェクトを開始した。5・6月の研究会では、研究のバックグラウンドもフィールド

も異なる研究メンバーの多様な問題意識を共有することを目指して、『新編東京圏の社会地図』から得られた手法および知見を題材として議論がなされた。7月からは、東京圏および大阪圏について暫定的に描かれた主題図を基に、いかなる指標を用いて地図化を行うべきか、どのような理論的フレームワークに載せて知見を吟味すべきかを毎月開催

される研究会において議論し準備を重ねてきた。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、浅川を研究代表者とした研究グループが基盤研究 A(1)として行ってきた研究「首都圏の社会地図：社会地区分析の手法の開発および社会地図の作成」(課題番号：11301008) から得られた手法および知見に基づき、日本の二大都市圏である東京大都市圏と京阪神大都市圏の社会・空間構造を比較することにある。本研究の中心的な課題は次の2点である。

第1は、高度経済成長期以降からバブル経済絶頂期に至るまでの東京圏を対象とした研究の手法・知見を、京阪神圏においても適応可能であるか否かを比較検討し、適応不能である場合にはいかなる規定要因が存在するかを明らかにすることである。

第2は、二大都市圏のバブル経済崩壊以降の空間および社会構造の変動の有無とその方向性、特に現在社会問題になっている、都市再生における、湾岸開発や都心回帰・再開発のインパクトを明らかにすることである。

## 3. 研究の方法

(a)東京大都市圏の地図化、指標リストの整備  
『新編東京圏の社会地図』を基に、東京圏の地図化を先行させる。地図化までには、(1)対象範囲のデータを整え、必要な比率を算出し、6段階の指標値に変換するという SPSS を用いた作業、(2)定義式や基本統計量などを指標リストにまとめるという excel を用いた作業、(3)GIS ソフトを用いた地図化作業(主題図の描画)という3段階の作業が必要となる。東京圏の地図化を先行させ、指標リストを整備し、大阪圏の地図化に結びつける。

### (b)京阪神大都市圏の地図化

大阪、神戸、京都と多核心型の都市構造を示している大阪圏を、一極型の東京圏と比較する場合には工夫が必要である。インナーエリアとして大阪市と東京 23 区とを比較するか、関西地方すなわち大阪府・京都府・滋賀県・兵庫県・奈良県・和歌山県・三重県の2府5県という最大限に広げた範囲と東京圏の比較を行うか、対象範囲の設定は都市の空間・社会構造の比較研究の重要な論点である。

京阪神大都市圏については、東京大都市圏分析で行った平均値と標準偏差(あるいは中央値と分位値)による指標値化の手法を適応

する前に、指標値ではなく比率で塗り分けたレイト・マップを作成する。地図化する指標は東京圏の地図化で整備された指標リストに準拠するが、対象範囲は 5235 の第1次メッシュを中心とする8個の1次メッシュ(5134:徳島を除く)として、比率で塗り分けたレイト・マップを描く。

### (c)解釈をめぐる議論と現地調査

上述(a)(b)によって描かれた1枚1枚の地図は、必ず、空間・社会構造の一側面を映し出している。しかしながら、それが何を意味するかは必ずしも自明ではない。そこで、社会学者、地理学者を交えての議論が必要不可欠である。

議論の場は、フィールドのひとつである大阪圏に位置する大阪市立大学とする。大阪をフィールドとする調査に長らく関わってきた谷を中心とし、月に1回のペースで全メンバーが集まり、それまでに描かれた地図の解釈をめぐる議論をする。そして、さらにどのような地図が必要かを確認し、また大阪圏としてどのような地理的範囲を設定すべきかを議論する。

また、本分析の単位は1 Km メッシュで行うために、地図化により特徴的な地域を特定化することが可能になる。GIS で表現されるマクロデータでは、実際にどのような地域構造により、特定の値が高く(若しくは低く)なっているのかを明らかにすることは出来ない。特徴的な地域への現地調査も必要になる。

## 4. 研究成果

第1の成果は、GIS を共通のプラットフォームとした都市社会学と都市地理学による共同研究が、概念の相違点などを明らかにしたことにある。

第2の成果は、東京大都市圏の空間構造の変容過程の分析から得られた。東京大都市圏全体を見ると、ローカル・コミュニティが有してきた社会文化的特性が脱色され、全方向的に均質な中心対周縁という凝離した空間で序列化する力によって構造化されている実態が明らかになった。

それに対して京阪神大都市圏は、大阪、京都、神戸の3都市を核とした構造をもっている点が、東京大都市圏とは大きく異なる。1980年以降の変化を分析した結果、ホワイトカラー、ブルーカラーの居住分化傾向は維持されたままであるものの、80年段階では明瞭であった職業階層による居住圏の同心円

構造が不明瞭化してきたことが明らかになった。これが第3の成果である。

さらに、二大都市圏を同一基準で社会地区分析にかけた結果、東京大都市圏では工業が集積する地域が見られたものの、京阪神大都市圏では東京大都市圏と同程度の工業集積地域は少ないことが示された。複数の都市圏を同一基準で分析するという方法論の確立が第4の成果である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 13 件)

- ①高木恒一, 都市社会学における地理的概念, 人文地理, 58-5, 2006, pp.92-93, 査読なし
- ②浅川達人, 社会地図プロジェクトの到達点と課題, 人文地理, 58-5, 2006, pp.93-94, 査読なし
- ③妻木進吾・堤圭史郎, 職業階層からみた京阪神大都市圏の空間構造, 人文地理, 58-5, 2006, pp.94-95, 査読なし
- ④浅川達人, 東京圏の構造変容—変化の方向とその論理, 日本都市社会学科年報, 24, 2006, pp. 57-71, 査読あり
- ⑤上野淳子, 規制緩和にともなうとし再開発の動向—東京都区部における社会・空間的分極化, 日本都市社会学科年報, 26, 2008, pp. 101-115, 査読あり
- ⑥豊田哲也, 社会階層分極化と都市圏の空間構造—三大都市圏における所得格差の比較分析, 日本都市社会学科年報, 25, 2007, pp. 5-21, 査読なし
- ⑦田中耕市, 1990年代の東京23区における都市密度変化と土地利用転換, 地学雑誌, 117-2, 2008, pp. 479-490, 査読あり
- ⑧熊谷美香・矢部拓也, GISを用いた大都市圏の比較研究—東京圏と京阪神圏の社会・空間構造比較, 徳島大学社会科学研究所, 19, 2006, pp. 251-262, 査読なし
- ⑨浅川達人, 社会地区分析再考—KS法クラスター分析による2大都市圏の構造比較, 234, 2008, pp. 299-315, 査読あり
- ⑩谷富夫, 「大阪の社会地図」を試みる—特集解題, 市政研究, 150, 2006, pp. 104-107
- ⑪熊谷美香, 社会地図でみる大都市圏構造と比較研究のアプローチ, 市政研究, 150, 2006, pp. 108-117
- ⑫妻木進吾, 職業階層からみた京阪神大都市圏の空間構造とその変容, 市政研究, 150, 2006, pp. 118-127

- ⑬堤圭史郎, 大阪のインナーリングエリア—その空間分布と動向, 市政研究, 150, 2006, pp. 128-136

[学会発表] (計 6 件)

- ①高木恒一, 都市社会学における地理的概念, 第17回都市圏研究部会, 2006年5月20日, 大阪大学中之島センター内
- ②浅川達人, 社会地図プロジェクトの到達点と課題, 第17回都市圏研究部会, 2006年5月20日, 大阪大学中之島センター内
- ③妻木進吾・堤圭史郎, 職業階層からみた京阪神大都市圏の空間構造, 第17回都市圏研究部会, 2006年5月20日, 大阪大学中之島センター内
- ④豊田哲也, 社会階層分極化と都市圏の空間構造, 第24回日本都市社会学会大会, 2006年9月16日, 名古屋大学
- ⑤浅川達人, 東京大都市圏の形成過程, 第80回日本社会学会大会, 2007年11月18日, 関東学院大学
- ⑥田中耕市・貝沼恵美, GISを援用した東京23区における都市密度の時系列的分析, 日本地球惑星科学連合2007年大会, 2007年5月20日, 幕張メッセ

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]

#### 6. 研究組織

(1) 研究代表者

浅川達人 (ASAKAWA TATUTO)  
明治学院大学・社会学部・教授  
研究者番号: 40270665

(2) 研究分担者 (H17~19年度まで)

谷 富夫 (TANI TOMIO)  
大阪市立大学・文学研究科・教授  
研究者番号: 30135040

矢部拓也 (YABE TAKUYA)  
徳島大学・総合科学部・准教授

研究者番号：20363129

田中耕市 (TANAKA KOUICHI)  
徳島大学・総合科学部・准教授  
研究者番号：20372716

豊田哲也 (TOYODA TETSUYA)  
徳島大学・総合科学部・准教授  
研究者番号：30260615

高木恒一 (TAKAGI KOUICHI)  
立教大学・社会学部・教授  
研究者番号：90295931

(3) 連携研究者 (H20 年度のみ)

谷 富夫 (TANI TOMIO)  
大阪市立大学・文学研究科・教授  
研究者番号：30135040

矢部拓也 (YABE TAKUYA)  
徳島大学・総合科学部・准教授  
研究者番号：20363129

田中耕市 (TANAKA KOUICHI)  
徳島大学・総合科学部・准教授  
研究者番号：20372716

豊田哲也 (TOYODA TETSUYA)  
徳島大学・総合科学部・准教授  
研究者番号：30260615

高木恒一 (TAKAGI KOUICHI)  
立教大学・社会学部・教授  
研究者番号：90295931

(4) 研究協力者

上野淳子 (UENO JYUNKO)  
日本学術振興会・特別研究員

熊谷美香 (KUMAGAI MIKA)  
大阪市立大学・大学院文学研究科

堤圭史郎 (TSUTSUMI KEISHIROU)  
大阪市立大学・大学院文学研究科

妻木進吾 (TSUMAKI SHINGO)  
日本学術振興会・特別研究員